

補導員だより

第68号
令和8年3月
福井市補導員連絡協議会
編集・発行
総務広報部会

児童心理治療施設

「ふくい森の子学園」

令和7年11月26日、今年度4月に北陸地方で初めて設立された児童心理治療施設「ふくい森の子学園」(福井市真栗町 ふくい健康の森内)を、補導員総務広報部会で視察、取材をしました。



本施設は家庭環境や情緒面・行動面に課題を抱え、社会生活への適応が困難となった子どもたちを、児童相談所の措置により入所または通所で受け入れています。心理的治療や生活支援、教育を通して、社会適応能力を育む専門施設です。

対象は主に小学生・中学生で、定員は入所15人、通所5人となっています。11月現在は入所児童5人が生活しており、12月には新たな入所も予定されています。現在は通所の受け入れは行っており、県外からの問い合わせもありませんが、まずは県内児童を優先して受け入れているとのことでした。

支援について



居間にはタブレットが設置され、使用順は子どもたち自身で話し合って決め、ルールを守れた場合にはシールがもらえる仕組みと



「見て分かる」生活支援と日常生活・社会体験

生活の場となるホーム(居住空間)には個室が用意され、各部屋には口フトベッドや収納、机と本棚が配置されています。明るくコンパクトな造りで、子どもたちが「自分の居場所」として安心して過ごせる工夫が感じられました。キッチンや居間、浴室、洗濯室、洗面・トイレといった生活設備に加え、気持ちよく過ごせるための「そよかぜルーム」も設置されており、心身の安定を大切にしたい環境づくりがなされています。生活スペースは夜間に施錠されるなど、安全面への配慮も徹底されていました。

なっています。また、自由時間についても静と動のバランスを考えた時間枠が設けられ、疲れきるまで動き続けてしまわないよう工夫されていました。テレビの前には声の大きさの目安を示した表が掲示され、洗面所には歯みがきの手順を写真で示すなど、「ちゃんとしよう」といった曖昧な指示ではなく、目で見て理解できる支援が日常生活の中に取り入れられています。さらに、家庭に近い環境を意識し、年齢や興味に応じた外出活動も行われています。これまでに大阪・関西万博への外出も実施されるなど、社会とのつながりを感じられる体験を通して、子どもたちの視野を広げる取り組みが大切にされていました。

学校教育との連携

園内には、福井市杉坂小中学校の特別支援学級分教室が併設されています。学校は子どもたちの生活の一部として位置づけられており、日常の流れの中で無理なく学習に取り組める環境が整えられていました。授業内容は特別支援学校に準じており、教員が一人ひとりの理解度に合わせた、きめ細かな指導を行っています。

ある日の過ごし方

7:00	起床 朝食 登校準備 など
8:30	登校 杉坂小中学校分教室
14:50	下校
15:00	おやつ 自由時間 など
18:00	夕食 入浴など
20:00	就寝準備
21:00	入室 就寝

多職種によるチーム支援

施設には、医師、看護師、児童指導員、心理療法担当職員が配置されています。事務室が共通であるため、杉坂小中学校の

教員と日常的な情報共有が行われ、切れ目ない支援体制が整えられていました。医療面では、オンラインを活用しながら県内医療機関と連携し、精神科医と常に相談できる体制が整っています。定期的なオンライン会議に加え、医師が来園して子どもたちの様子を直接確認し、職員へ助言や研修を行うなど、継続的な医療連携が行われていました。また看護師が常駐し、服薬管理や体調管理を行うとともに、必要に応じて適切な医療機関につなぐ役割を担っています。食事は栄養士が献立を作成し、昼食は学校給食、夕食はホームで提供されています。朝食は泊まり勤務の職員が用意し、家庭的な雰囲気の中で一日が始まるよう配慮されています。

入所と将来を見据えた支援

入所・退所は児童相談所の措置により決定され、入所期間はおおむね2年程度を目安としています。長期間施設で生活することで社会適応が難しくならないよう、段階的な自立を意識した支援が行われていました。利用は主に15歳までを想定し、高校進学を見据えて、在宅生活や児童養護施設、里親など、退所後の生活を早い段階から見通した支援が進められています。受け入れにあたっては、事前に準備期間を設け、前籍校からの聞き取りや在籍児童への説明など、環境の変化に配慮した対応が行われていました。

子どもの成長を支える関わり

ここに来る以前は、不登校で週に1〜2回しか登校できなかった子や、授業中ほとんど眠っていた子もいましたが、生活リズムを整えることで、無遅刻・無欠席で通学し、「学

校が楽しい」と話すまでに変化した事例が紹介されました。特別なことをするのはなく、毎日の生活を安定させ、生活環境を丁寧に整えることが、子どもにとって大きな力につながることを実感しました。

施設では、子ども同士のけんかも成長の一過程として捉え、力強い言葉で抑え込むのではなく、行動に至った背景を丁寧に考える姿勢が大切にされています。子どもの様子をよく観察し、「眠りが浅かったのではないか」「お腹がすいていないか」「体調が悪くないか」など、行動の裏にある理由を推測したうえで環境を整えることで、子ども自身が気持ちよく言葉で整理する経験につながっているそうです。こうした大人の落ち着いた関わりが、子どもたちに安心感と学びを与えていると感じました。

まとめ

今回の見学を通して、ふくい森の子学園が、子ども一人ひとりの特性や背景を丁寧に受け止め、生活・教育・医療が連携した切れ目のない支援を実践していることがよく伝わってきました。開設間もない施設でありながら支援内容は非常に充実しており、子どもが安心して気持ちの揺れ動きを受け止めてもらいながら成長できる、地域にとって大切な役割を担う存在だと感じました。今後も注目し、期待していきたいと思えます。

森の子 まほうのことば

たたかないで言う

やさしく言う

相手が悪くても
やさしく言う

令和7年度 非行防止展

自転車利用のルールなど

令和7年7月26日、ショッピングシティ・ベル2階くらしの地域情報センターにおいて、自転車のルールについての非行防止展を開催しました。今年、福井南警察署少年警察協働員会と共催し、訪れた多くの家族連れや小中高生などに対して、自転車のルールについて、クイズやパネルで解説し、不審者対応要領「いかのおすし」の射的を行うなどし、親子で理解を深める機会を提供することができました。

非行防止展に参加して

当日はベルの夏まつりも開催されていてたくさんの方で賑わっていました。今年のテーマの自転車のルールについて、自転車の交通違反のルール改正に伴う取締りの強化のことは、大人の方にも関心が高く、反則金の金額の高さや、罰則について驚きながらも子どもさんと一緒に学ばれている姿が多く見られました。姉弟で来られていた子は、姉が弟にわ



かりやすく説明しながらクイズの答えを導いたり、一生懸命ルールの説明をしている姿が印象的でした。

また、今回初めて福井南警察署少年警察協働員の方と一緒に開催し、自転車運転に関するクイズの解答用紙を南署のブースにもっていくと「いかのおすし」射的ができるということもあって、年齢も幅広く、親子での参加も多く、クイズにもたくさんの方に参加していただけて、とても充実した一日でした。

(センター)

反則金対象になる違反例

- 二人乗り
- ながらスマホ運転
- イヤホン運転
- 傘さし運転
- 青切符導入後の自転車指導取締りについて詳しくはこちら↓
- 並進
- 信号無視
- 右側通行
- 無灯火
- 一時不停止
- 遮断機踏切立ち入り

福井市補導員連絡協議会主催 補導員研修会



令和7年10月28日
福井県立図書館多目的ホールにおいて、研修会を開催しました。

愛護センターの補導員を務める福井工業大学附属福井高校の宇佐先生から、補導員からの質問を交えながら、補導時に注意するポイントについて学びました。

研修会に参加して

生徒のスマホ依存、電子たばこ、精神科の対象になりうる発達障害等の精神疾患など、教育現場の実情も大変参考になりました。また、出会った青少年には明るく優しく軽く声かけし、注意や助言だけでなく、ほめたり励ましたりすることも大切だと学びました。

(地区補導員)

補導活動 Q & A

- Q 声かけしようと思うきっかけやポイント
- A 集団でいること、服装が乱れていること。まずは挨拶から(福井の子たちは返してくれる子が多い)
- Q あいさつをした後の会話が続き、何を話したらいいか
- A 近隣の学校の情報を頭に入れておく。学校行事など時期ごとのイベントが近ければ、それについて聞く。遊び場はやりなど、少年から情報をもらう。
- Q 見るからに怖い雰囲気の子への声かけはどのようにしたらいいか
- A 挨拶くらいはしてあげてもいいと思う。会話に馴れている子は多いので、意外に挨拶ができてきて、会話が続くこともある。
- Q 地区には特に量販店等もなく、公園を中心に見回りをしているが、どんなところをまわるといいか
- A 公園の公衆トイレが少年の喫煙場所になっていることがあるので、気にかけている。喫煙がコロナ以降増えてきており、外国人バイトのいるコンビニなどで買ってしまう。
- Q お化粧をしている最中の女子高校生へどうやって声かけしたらいいか
- A トイレ等であれば、他の人の迷惑にならないようにといった声かけ。飲食店等のテーブルであれば、あまり人前でするものではないとの声かけ。

おめでとうござります

令和7年11月22日、青少年健全育成福井県民大会が高浜町文化会館において開催され、当会の補導員3名が「優良な青少年愛護センター補導員に対する知事感謝状」を受領されました。

【受領された皆さん】 ※敬称略

- 竹川 雅裕 (上文殊地区)
- 西村 町子 (東安居地区)
- 小林 史武 (東藤島地区)

各地区からの補導活動報告記 こんちちは！ 東藤島地区です

東藤島地区は、福井市北東部に位置し、九頭竜川が近くに流れ、田園地帯が広がるのかな地区です。近くには、ワイプラザ新保店やドン・キホーテ、フェアモール福井(エルパ、アピタ福井大和田店)等の商業施設・量販店があり、以前に比べると子どもだけでも遊びに行ける場所が多くあります。

東藤島地区の補導員2名は、毎月岡保地区の補導員1名と一緒に3名で、マルハン福井大和田店の待合スペース、フェアモール福井の中にあるゲームセンター2か所、100円ショップ等を中心に補導活動を行っております。子ども連れの親子が多いですが、時々親が買い物している間子どもだけでゲームセンターで遊んでいたりと、部活帰りの中学生や高校生が、ゲームセンターに立ち寄って遊んでいたりとすることがあります。その時は、啓発グッズを渡して、声かけ指導、注意喚起を行っております。

今後、子ども達に事件や事故が起こらないよう、安心して過ごせるように、補導活動を継続していきたいと考えております。

編集後記

広報部会で視察、取材させていただいた「森の子学園」。北陸初福井県内唯一の児童心理治療施設は心を痛めた子どもと寄り添いながら、精神的治療や学習・生活指導を行い、普通の生活に戻れるようにする大切な役割があることを理解できました。今後職員の方々のご活躍を期待しつつも「森の子学園」でお世話になる子どもが増えないことを願うばかりです。

今、子育てを頑張っているすべての保護者の皆様に次の児童憲章を贈ります。

- ・児童は、人として尊ばれる。
- ・児童は、社会の一員として重んぜられる。
- ・児童は、よい環境のなかで育てられる。
- ・青少年の健全育成に関わる補導員として、子どもたちの未来が明るいものでありますように。

総務広報部長 松田 光正